

令和5年度 建設委員会行政視察報告書

建設委員会
委員長 横野 昭

- 1 視察期間 令和5年6月28日（水）
- 2 視察先及び視察事項
呉羽丘陵フットパス
「呉羽丘陵フットパス連絡橋の整備状況について」
- 3 視察参加委員

委員長	横野	昭
副委員長	村石	篤
委員	澤田	和秀
〃	田辺	裕三
〃	泉	英之
〃	谷口	寿一
〃	成田	光雄
〃	橋本	雅雄

- 4 随行職員

議事調査課長代理	酒井	優
議事調査課主任	澤井	将

5 視察概要

(1) 視察事項

- ・呉羽丘陵フットパス連絡橋の整備状況について

(2) 視察の目的

呉羽丘陵は、富山県を東西に二分する丘陵で、その尾根に沿って設けられた自然歩道が「呉羽丘陵フットパス」である。

県道富山高岡線によって分断される形となっていた呉羽丘陵フットパスに新たに設けられた連絡橋の整備が進んだことから、その整備状況を確認し、またフットパス連絡橋周辺広場の整備内容及び事業スキームについて理解を深め、今後の委員会活動の参考にするもの。

(3) 取組の概要

呉羽丘陵フットパス連絡橋は、県道富山高岡線から約28メートルの高さに設けられた主塔間隔124メートル、全幅員3.5メートル（有効幅員1.8メートル）のつり橋である。令和2年度に着工し、令和5年8月末に完成予定であり、工事費は約14億3,000万円である。

連絡橋の整備により、富山市民俗民芸村や呉羽山公園展望台のある呉羽山側と、白鳥城址や呉羽ハイツなどがある城山側を接続し、利便性を高め、今後富山市を代表する新たな魅力あるスポットとして利活用することを目指すものである。

連絡橋周辺広場については、官民連携（Park-PFI）の手法により、民間収益施設の設置やイベント開催が可能な広場の整備が予定されている。

事業スキームとしては、施設を公募対象公園施設（いわゆるにぎわい施設）、特定公園施設（広場、園路、駐車場）、公園施設（連絡橋）と分類し、公募対象公園施設及び特定公園施設については、設計、整備、維持管理それぞれの業務を民間に委ねることを予定している。また、公園施設については、維持管理を民間が行う予定である。

令和5年6月から事業者の公募を開始し、令和6年に設計、令和7年に整備を行い、令和8年6月から全面供用開始を予定している。

(4) 所感

〔横野委員長〕

呉羽丘陵フットパス連絡橋の上部を歩いて、富山市の観光スポットにふさわしい橋梁だと感じた。工事の進捗状況の説明では、非常に苦勞して完成に至っていることを感じ、工事関係者の努力に感謝する。

また呉羽山のウォーキングコースがようやく完成したような気分になった。工事の経過から完成までのドキュメンタリーがあってもよいと思う。

官民連携事業の周辺広場整備事業の進捗により、多くの市民に憩いの場として提供できることをさらに期待する。

〔村石副委員長〕

呉羽山公園と城山公園を結ぶつり橋「呉羽丘陵フットパス連絡橋」が、完成に近づいていることを現地で確かめることができた。呉羽山観光協会は、平成21年、富山市に両公園を結ぶ橋の建設を要望し、富山市は、令和2年3月26日、呉羽丘陵フットパス整備計画検討委員会において、つり橋を建設することを決定した。つり橋の幅は、車椅子がすれ違える広さがあり、子どもも高齢者も障がい者も安心して、富山市街地の向こうの立山連峰を見て楽しむことができる。現在は城山側に渡れないことから、早期に両公園を結ぶようになればよいと感じた。

〔澤田委員〕

フットパスについては必要性を問われる意見もある中、着実に進んでいるようである。橋自体はほぼ完成したようで、今回は呉羽山側から橋を渡ったが、城山側は、盛り土工事がこれから行われるということで、渡り切ることはできなかった。あいにくの空模様であったが、東側、西側の景観は晴れた場合は壮観であろうことが想像できる。ロードヒーティングも施されているようで、積雪時も渡ることができる。

課題としては、周辺広場整備で民間事業者自ら収益施設を整備し運営することであるが、採算が取れるのかが心配される。

〔田辺委員〕

ほぼ完成した呉羽丘陵フットパスの視察で、初めて橋を渡った。東は富山の中心市街地から立山連峰、西は呉羽の町並みから二上山・新湊大橋、すばらしい景観に感動した。今後、呉羽山側の公園広場を官民連携（P a r k - P F I）で整備されていく計画であると聞き、富山市の観光のメッカとなることを期待したい。駐車場が50台分程度整備される見込みであると聞いたが、土日は混雑するように思う。もう少し駐車スペースの確保が必要ではないかと感じた。

〔泉委員〕

主塔間隔124メートルのつり橋にして、主索（メインケーブル）を支持する橋台（アンカレッジ）のくいが約33メートルも打ち込まれており、10分間平均風速35メートルにも耐えられる構造で、冬季間の積雪や凍結による対応は、橋桁ばかりか、主索（メインケーブル）まで電熱線が巡らされ、気温・降雪センサーにて管理されている等、富山市の大動脈である旧国道8号線に雪や氷が落下しないよう、安全面には最大限の配慮がなされていた。ただ、呉羽山、城山の両側に樹木があるため橋の中央部まで行かないと立山連峰が見えないことと、つり橋特有の「揺れの恐怖」を期待していただけない、屈強な構造が個人的には物足りなく感じた。

〔谷口委員〕

呉羽丘陵フットパス連絡橋は、いろいろな意味で注目される事業であり、多額の予算をつぎ込んだ本市の目玉事業として、何とせよ成功させる必要があると考える。

今回は、連絡橋単体の視察であり、まだ全体像をつかむことはできなかったが、今後、

周辺整備を進め魅力あるものにしていかなければならない。

せっかく動き出した事業を本市の魅力の1つとして広くPRし、多くの人に訪れてもらえるように取り組んでいくことが重要と考える。

呉羽山・城山の両方がアクセスの起点となれるよう整備することも必要だと感じた。

〔成田委員〕

現地にて当局より、施工フロー写真等の資料を基に工事の経過や周辺広場整備について説明があり、仮設撤去後のほぼ完成した連絡橋を渡り、城山側、呉羽山側の現況を視察した。つり橋である連絡橋の揺れを感じることはなく、眺める視界からは高所の不安感なく落ち着いて眺望することができた。公園と便益事業が融合した豊かな自然体験施設として、呉羽丘陵の魅力が一層高まりにぎわう拠点施設になるが、管理運営、維持管理は民間委託されるので、事故やトラブルのないよう安全管理対策は徹底してもらいたい。

〔橋本委員〕

これまで県道で分断されていた呉羽山と城山が、連絡橋によってついにつながった。期待していた分、辛口評価になってしまうが、実際に渡ってみると歩道橋の延長に過ぎないというのが率直な感想だ。

連絡橋自体が観光資源になるかと問われれば、正直、否と言わざるを得ないかもしれない。それでも、私はこの事業に大いに期待したい。連絡橋と周辺広場の整備が一体となって、呉羽丘陵の魅力を高めるものと信じている。

この後、周辺広場の整備が始まっていく。官民連携事業であり、民の力にも期待が寄せられる。令和8年の広場供用開始が待たれる。

令和5年6月28日（水）呉羽丘陵フットパス連絡橋

